県内初 鶏糞ボイラー発電施設起工式

環境に配慮した設計

県内初となる鶏糞を活用したボイラー発電施設建設を計画している㈲南九州バイオマス（田中静雄社長、鹿児島市）が23日、薩摩郡さつま町の新築工事現場で起工式を行った。式典には、農林事務所や行政、工事関係者ら約30人が出席。玉ぐし奉納などの神事で工事の安全を祈願した。

式では祝詞奏上の後、刈り初めの儀を同社の松山照取締役、鍬入れの儀を㈱衛藤中山設計の中山克己社長、杭打ちの儀を三和建設㈱の前田正人社長と㈱白川田工務店の白川田廣八社長がそれぞれ行った。

同社では、牛糞などの一般的な家畜堆肥と比べ、窒素や悪臭などから需要が少ない鶏糞に着目。環境に配慮した処理方法や活用に向けた取り組みを進めてきた。今回、導入するシステムは鶏糞を燃焼させることによって大量に発生する蒸気をタービンで発電。隣接する鶏肉加工場㈱アクシーズ（橋野強社長）に送電するとともに、残りの電力を電力会社に買い取ってもらうもので、グループ企業全体で環境問題に取り組んでいる。

同施設の設計を手掛けた中山社長は「臭気や騒音、熱などを遮断するためにボイラー施設を建屋で囲むなど、環境面に配慮した設計となった。県内初ということで、今後各方面から注目されるだろう」と話した。

工事の安全を祈願する出席者
＝さつま町の新築工事現場で

話題の商品・工法

新商品・工法の情報などは本社報道部へご連絡下さい。

無公害防護処理木材「エコ木材」

経済性等で好評発売中

マテリアル九州

㈲マテリアル九州（郡山謙二社長、指宿郡頴娃町）は、国交省新技術情報システム登録・無公害防護処理木材「エコ木材」を好評、販売中。

同木材は、ウッドトリートメント処理による木材で、屋外の木材保護専用に開発された防護剤を使用。土壌汚染法や水質汚濁法にも抵触しない自然鉱物と植物からつくられている。雨や太陽にさらされることで、かえって美しい木肌を保つのが特長。海外では100年以上の実績がある。

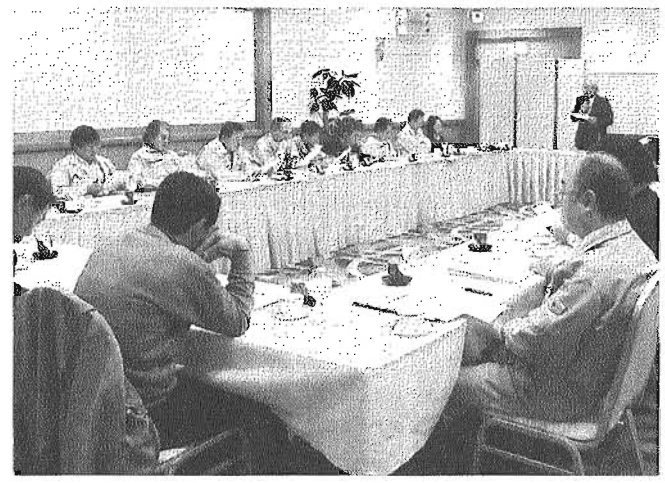
多くの木材処理剤は、2～3回塗りして数年後に再処理、さらに数年後にメンテナンスが必要となるが、同製品は雨や太陽にさらされることで処理剤が少しずつ木材に浸透するため、最初の1回だけの処理ですむ。経済的で、しかもメンテナンス費用はほとんど必要ない。

用途は、土木用丸太やウッドデッキ、アスレチック、外壁用木材などに最適。同社では防護剤による加工処理から処理木材の販売、施工までを一貫して行う。

詳しくは、同社（☎0993・27・4365）まで

県鉄構工業会第3回全体会議

鋼材事情踏まえ研修



能力開発セミナーも行われた全体会議
＝鹿児島市のベイサイドガーデンで

県鉄構工業会（新屋敷幸男理事長）は23日、鹿児島市のベイサイドガーデンで第3回全体会議を開いた。キャリア教育など高度な人材育成に向けた能力開発セミナーのほか、建築構造用鋼材の利用技術、鋼材事情や今後の展望等についての研修が行われた。

セミナーでは、末原勉末原社会保険労務士事務所長が〝燃える社員はこう育てよ〟と題して講演。「社員は企業内起業家であってほしい。受け身でなく、自分の意志でこの仕事をしているという強い意識が必要」と述べた。指導にあたっては、キャリア教育におけるコーチングの重要性を力説し、「社員が持つ知識と行動の溝を埋めること、部下と上司の会話の促進を図ることなど〝個人のアイデアをいかに発展させていくか〟がポイント」などと話した。

研修では、先進の高性能建築構造用鋼材（SA440）の利用技術等について説明。全国での適用例をもとに、「重量低減やトータルコスト削減、設計の高自由度化が可能」などとそのメリットを学んだほか、米国のワールドトレードセンター崩壊を構造面から追及した報告書も紹介された。

昨今の鋼材事情について、新屋敷理事長は「材料不足、価格高騰の主因は依然として中国への大量輸出にあり、世界生産の約4分の1を占めている状況」とし、「国内の厳しい現状はあと3年続くと予測されている」などと話した。

記念碑を前に写真に納まる参加者ら
＝松山町の松山ＩＣ出口の緑地帯で

末吉松山間開通記念 タイムカプセル埋設式

児童招き思い出づくり

大隅土木等

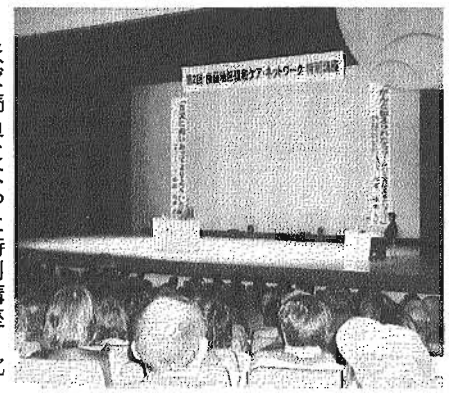
地域高規格道路「都城志布志道路」の末吉松山間が開通した記念事業として、県大隅土木事務所と末吉松山有明道路安全協議会（田中裕之会長）は23日、曽於郡松山町の松山インターチェンジ出口の緑地帯で、地元の松山小学校児童を招待し、工事関係者、自治体関係者ら約60人が参加してタイムカプセルの埋設式を行った。

埋設式では、初めに高江美博大隅土木事務所長が、式の趣旨説明を述べ「皆さんが20歳になったときに開封します。楽しみに待っていてください」と参加のお礼を含めて挨拶。その後、心の掛け橋と題した児童の作文や工事関係資料などを持参した本人が、順次、タイムカプセルに収めた。カプセルを地中に埋設する際には、児童もスコップを手に加わった。

最後に、引率してきた亀田重信松山小学校長が「中学校に入学すれば毎日通学でここを通ることになり、いい思い出になることでしょう。すばらしい思い出つくりに参加して感謝しています」とお礼を述べ式を終えた。カプセルは8年後の平成25年1月（参加した小学生が成人式の日）に開封される予定である。

南薩地区 緩和ケア・ネット特別講座

ガン告知に高い関心



ほぼ満員となった特別講座＝枕崎市の市民会館で

第2回南薩地区緩和ケア・ネットワーク特別講座が18日、枕崎市の市民会館で「告知について～ガンと伝えられたら？真実に向かい合ってよりよく生きる～」と題した講演が行われ、訪れた来場者らは終始真剣な面持ちで聴講していた。

約1000人が訪れた講演は、病院チャプレン（医療チームの一員として患者や家族の相談）を務める長倉伯博氏と、鹿児島大学病院放射線科医師の三木徹生氏、座長にサザン・リージョン病院理事長であり鹿児島緩和ケア事務局長も兼務する牧園寛郎氏らを講師に迎えて「告知について」と題して講演が行われた。終末期患者の医療において、豊富な経験を持つ長倉氏と三木氏は「真実に向かいあってよりよく生きる」、「ガンとともに生きるということ」と題してそれぞれ講演。

その中で、長倉氏が「残り少ない時間をどう生きるか、その答えは患者と家族のみが決められる」、三木氏が「ホスピス（緩和ケア病棟）は、死にゆくところではなく、患者に残った時間をいかにして有意義に過ごすかを決める場所」と、常に患者の人間性を尊重してあげることが必要であることを説明。ほぼ満席の会場では、両氏の講演に対し来場者らが終始真剣な面持ちで聴講する光景が見受けられるなど、ガン告知に対する関心の高さがうかがえた。

第2回地域まちづくり会議

きょうから5地区で

鹿児島市

鹿児島市は、第2回地域まちづくり会議を開く。意見・提言の取り扱いや第1回会議における意見等の検討状況、17年度当初予算、支所空きスペースの活用などについて協議する。

各地区の開催日時は次の通り（①開催日②場所）。

▽吉田地域まちづくり会議＝①24日10時②吉田福祉センター
▽郡山地域まちづくり会議＝①同14時②郡山支所
▽喜入地域まちづくり会議＝①25日9時30分②マリンピア喜入八幡温泉保養館
▽松元地域まちづくり会議＝①同14時②松元支所
▽桜島地域まちづくり会議＝①同14時②桜島支所

中心市街地活性化イベント「アイムカフェ」

あすから3日間

鹿児島商工会議所

25日の天文館新アーケード竣工式に合わせ鹿児島商工会議所は27日までの3日間、鹿児島市のアイム前広場で中心市街地活性化イベント「アイムカフェ」を開く。時間は午前11時から午後7時まで。

期間中は、オープンカフェや花市場を設置し、コーヒー等のドリンクや軽食等をはじめ、花苗や花鉢の販売を行うほか、鹿児島中央駅前までの無料サービス券なども配布する予定。